

思われるほど関わっていく必要があることを改めて確認したい。また学生にも、研究だけでなく、どのような悩みであっても、専攻の教員全員が相談窓口であることを伝える必要があると考えている。

環境計画学専攻のこの一年

陶器 浩一

環境計画学専攻長

2018年度は、滋賀県立大学学位規程に基づき、博士後期課程の学生1名（環境意匠研究部門）に博士（環境科学）の学位が授与された。また、環境意匠研究部門では15名、地域環境経営研究部門では2名の学生が博士前期課程を修了し、修士（環境科学）の学位を授与された。

環境意匠研究部門では修士論文、修士設計のいずれかを選択するが、本年度は修士設計9名、修士論文6名と、初めて修士設計数が修士論文数を上回った。論文、設計とも独自の視点を持った優秀な研究が多く、発表会では活発な議論が交わされた。また、最も優秀な研究に贈られるED賞（環境デザイン賞）も例年は一人に対して授与されるが、本年度は選考（公開）において十分な時間をかけて質疑応答や批評が行われたが最終選考に残った研究は甲乙つけがたく論文、設計から各ひとりを選出することになった。ED賞の審査は昨年度から公開で行っているが、公開の場での批評や議論は学生、教員、聴衆共に大変有意義であり、これからも続けてゆきたいと考えている。

今年度は特に修士設計が例年より優れており、ようやく修士設計が定着してきたように感じる。

地域環境経営研究部門では、修了した学生のうち1名が、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、環境と調和した循環型地域社会を形成するために、地域診断からまちづくりへの展開を提案し実行する知識とスキルを備えた「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」の称号を授与された。さらに、修了した学生は2名とも滋賀県内の地方自治体へ公務員として就職することが決まっており、大学院修士課程の当部門で学んだことを仕事としても役立たせることが期待できる。

なお、環境意匠研究部門の在籍学生数は、博士前期課程30名（M1が15名、M2以上が15名）、博士後期課程4名、地域環境経営研究部門の在籍学生数は、博士前期課程6名（M1が3名、M2以上が3名）、博士後期課程1名であった。